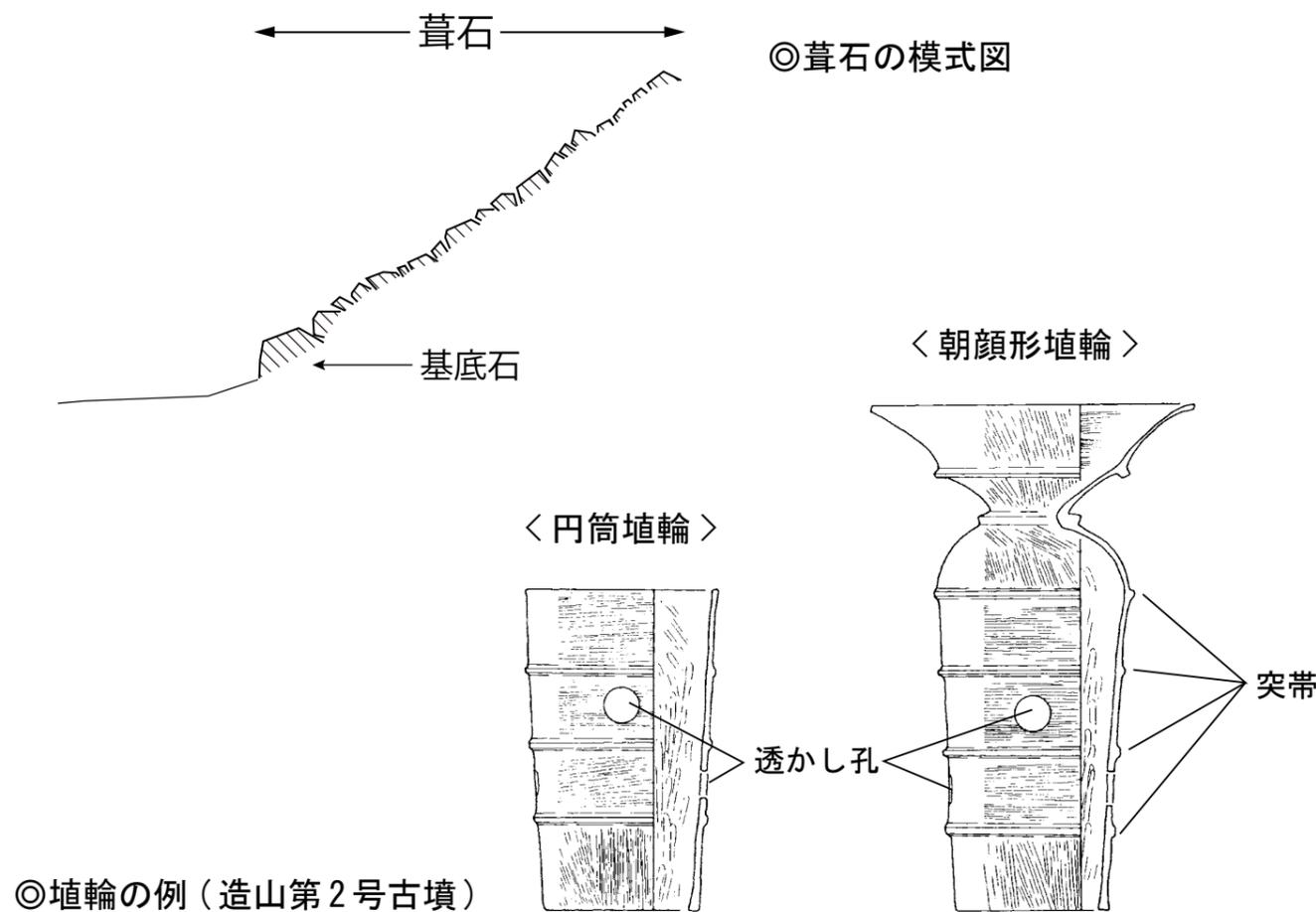


トレンチ2でもテラスは現状で埴輪列以外に礫が敷かれるなどの遺構はみられないようです。また、埴輪列より外側約1mで第2段斜面に移行しますが、法肩付近の葺石は残っていません。第3段斜面の葺石からこの傾斜の変わる箇所までの水平距離は約7.0m前後となり、テラス幅の復元案の一つとして挙げられます。第2段斜面はトレンチ1における葺石の検出状況から考慮すると、その傾斜角度は25度前後を測るでしょうか。

トレンチ3は葺石の内容が明らかですが、埴輪列は削平部分に近いので残存していませんでした。

トレンチ5の第3段斜面の葺石において、最終的に基底石は検出できる可能性があります。また、埴輪列は想定したライン上に破片が比較的まとまりをもって散乱している状態でした。トレンチ2や4のように良好な状態で検出されてはいませんが、調査区内にはかく乱をまぬがれた2個体分が残されています。出土した破片を観察すると、列中には朝顔形埴輪が含まれていたようです。第2段斜面側では法肩付近は大量の土砂が堆積しています。トレンチ5付近では古墳築造よりも後の時代、第3段斜面に縦堀が存在していることから城郭に関連する遺構の影響が考えられます。墳丘においては秀吉の中国攻めの際、毛利方の陣地が設けられました。

今回の調査においては、各トレンチの発掘成果からは墳丘2段目を中心とした斜面の長さや角度、テラスの幅の他、葺石や埴輪列の具体像を明らかにすることができました。特に埴輪列はトレンチ2や4のように密集して並んでいたとして、後円部でどれほどの数が墳丘上に存在していたかを推定する上で欠かせない手がかりとなります。



造山古墳発掘調査現場公開資料

岡山市教育委員会

日時：令和2年11月29日（日）

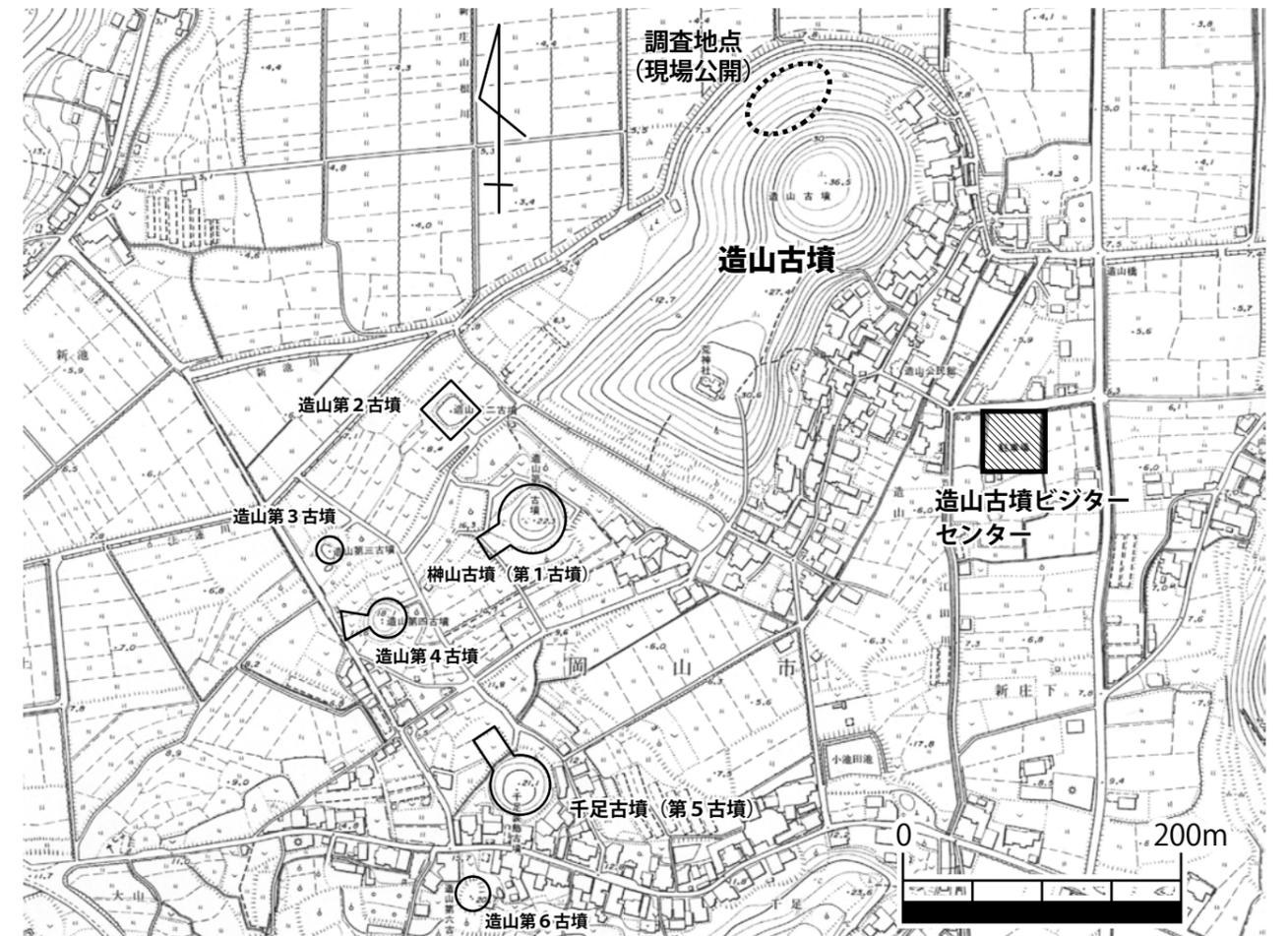
場所：岡山市北区新庄下（発掘現場）

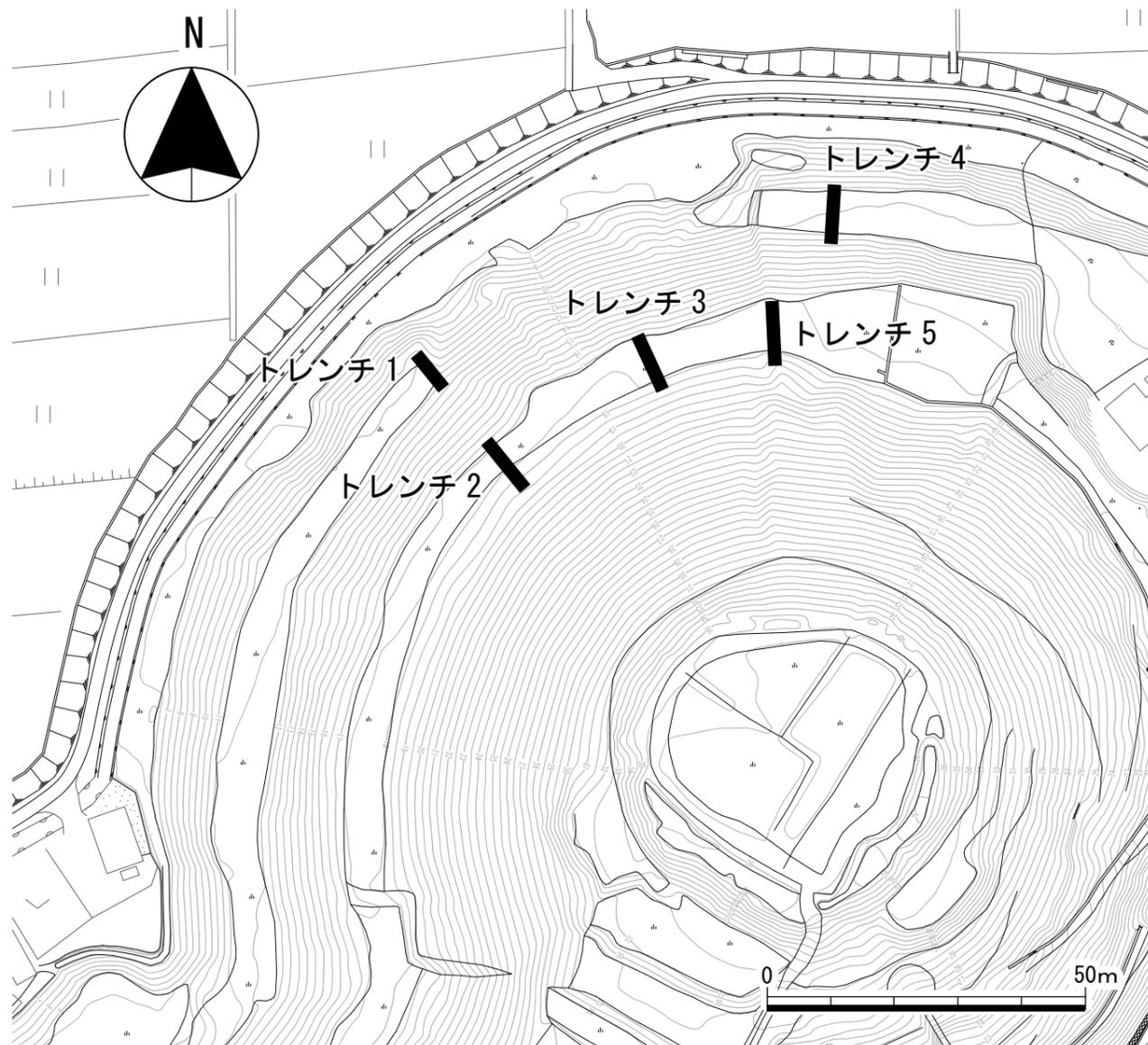
はじめに

岡山市教育委員会では、造山古墳の範囲確認のための発掘調査を10月中旬より進めており、このたび、確認された遺構や遺物を一般に公開するはこびとなりました。今回は後円部北側の第1、第2段テラスを中心に発掘を行った結果、斜面にかかる葺石やテラス上で埴輪列などがみついています。埴輪列は造山古墳の調査において初めて確認されました。こうした遺構や遺物の検出は築造当時の古墳の姿を復元する上で欠かせません。吉備において最大の古墳の実像に迫る大きな一歩です。

造山古墳群の概要

造山古墳は全国で4番目の規模を誇る前方後円墳で、5世紀前半頃の築造が考えられています。墳長350m、三段築成でくびれ部には造り出しが付属します。主たる埋葬施設や副葬品は不明ですが、前方部の頂上には阿蘇溶結凝灰岩製の石棺が存在しています。また、造山古墳の周辺には現在6基の古墳が分布しており、その中でも榊山古墳の出土品や千足古墳の石室からは古墳時代中期における列島内外の地域との交流の活発さがうかがえます。





◎ 2020 年度造山古墳調査区配置図

調査成果の説明

今年度の調査は、後円部北側に存在する墳丘の大きなえぐれた部分を将来的に整備するため、それを取り囲む形で調査区を5ヶ所設定しています。後円部第1段斜面や第2段斜面の長さや角度、また2つのテラスの幅といった墳丘に関するデータその他、斜面を覆う葺石、テラスに存在する埴輪列の有無やその詳細など、復元に向けて実態を把握する目的です。

造山古墳の墳丘は三段に築かれており、今回の調査では上下二つある後円部のテラスを調査しています。トレンチ1と4では、下に位置するテラスを発掘しています。

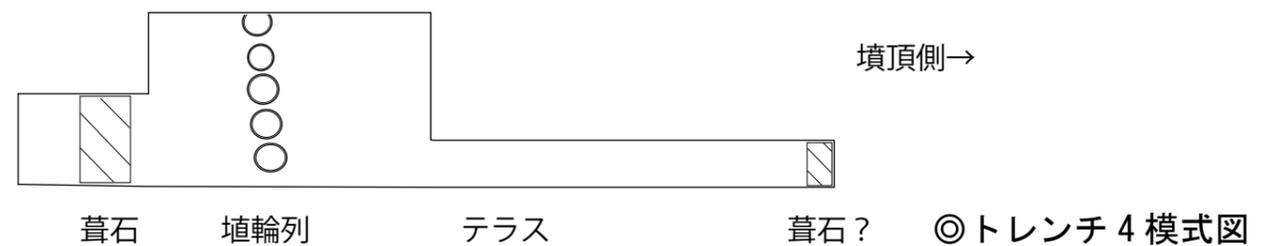
トレンチ1では、第2段斜面の葺石を良好に検出しています。水路側からの削平が及んでいるためか、残念ながら埴輪列は確認できませんでした。

トレンチ4は掘り進めていくと、埴輪列が残されていることが明らかになりました。埴輪列は基底部に近い部分が元の位置をとどめており、10～15cm程度が埋まっている状態です。埴輪本来の

高さがどの程度であったかは、上部が失われてしまっているため定かではありません。現状で露出している埴輪の直径は30cm大を測っており、調査区の幅2mで5個体分が密な間隔で樹立しています。以前より造山古墳には埴輪列が存在する可能性が考えられてきましたが、実際にそれが発掘調査の中で確認できたことは大きな意味をもっています。

埴輪列はテラスの中でも第1段斜面に寄った位置に存在します。第1段斜面の葺石は法肩に近い部分が残存している状態で、両者の間隔はおおよそ1.5m離れています。逆に第2段斜面に目を向けると、葺石の基底石は失われている一方で、斜面途中の葺石は残されている可能性があります。上部のトレンチ5の成果から第2段斜面の角度等が判明すれば、下に位置するテラスの幅を復元することができますが、6m前半台におさまるでしょうか。

T 4



トレンチ2、3、5は、上に位置するテラスを発掘しています。

トレンチ2では10cmほど掘ると葺石やテラスの埴輪列を検出しています。まず、葺石は第3段斜面の基底石に近い部分が残されており、30～40cmの石材をそろえて並べています。これらの石材には花崗岩が主に使用されます。隣接するトレンチ3でも、基底石に30～40cmの石材を横置きして用いており、石の下端の高さも2つの調査区間でほぼ同一に合わされています。次に埴輪列は第2段斜面寄りに4個体を確認できました。隙間がみられる箇所がありますが、直径は基底部付近で30cm大を測り、上部はとばされてしまっています。また、トレンチ2の埴輪列の設置方法は、埴輪のまわりに明確な掘方がみえず、テラスをつくる段階で一緒に埋められた可能性があります。一方で下のテラス、トレンチ4の埴輪列ではそれぞれに壺掘り状の掘方を伴っており、穴を掘って埋められたものとみられます。葺石の例と同様ですが、埴輪の置き方についても墳丘の各所で施工法が異なっていたことが想定されます。

T 2

